

全日本女子野球連盟大会規則は、2024 年度公認野球規則・アマチュア野球内規・全日本女子硬式野球内規に準じ、次に定める規定を適応する。

1. 大会規則

1) イニング数

7 イニング制

2) 正式試合となる回数

球審によって打ち切りを命じられた試合（コールドゲーム）が正式試合となる規定回数を「5 回」とする

3) 得点差によるコールドゲーム

5 回終了以降 10 点以上の得点差がある場合、コールドゲームとして試合の打ち切りが宣告される。

4) 延長回に関わる特別規則（タイ・ブレイク）

7 回の攻撃を完了し、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、0 アウト走者 1、2 塁の状態から行うこととする。

5) 指名打者

指名打者(DH) の採用を認める。

6) 用具全日本女子野球連盟用具規定

用具規定に関しては、別紙に定める。

7) イニング間※大会規定等により別途定めることができる。

イニング間の時間は 2 分 10 秒以内とし、その計時は次のときに始まり、球審がプレイを宣告したときに

終わる。

(1) 1 回の表は、先発投手が球審からボールを受け取ったとき。

(2) 攻守交代の場合は、第 3 アウトが成立したとき。

(3) イニングの途中で投手が交代する場合は、守備側の監督が球審に交代を通告したとき。

8) 準備投球

投手の「準備投球」は公認野球規則 5.07 (b) に準ずる。ただし、上記 7) 計時が開始されてから 1 分 40 秒が経過したら、1 球だけ投球することができる。

9) ベンチ入り人数

ベンチ入り人数は、大会登録名簿に記載された役員（監督、コーチほか）5 名以内とプレーヤー 11 名以上、25 名以内の計 30 名以内とする。

但し、特別な事由として大会本部が認めた場合はこの限りではない。

10) メンバー交換

先攻後攻の決定、メンバー表交換は、第 1 試合は試合開始予定時刻の 1 時間前、第 2 試合以降は前の試合の 3 回裏終了時に大会本部にて行う。メンバー表には、必ずふりがなを付け、大会本部で登録メンバーの照合を受けることとする。

11) サスペンデッドゲーム（一時停止試合）の適用

天候状態、照明の故障またはこれに類する理由で試合続行不可能となり試合を打ち切った場合、正式試合となる回数に達して両チームの得点が等しかったとき、及び正式試合となる回数に達していないときはサスペンデッドゲームとする。

ただし、正式試合となる回数に達して勝敗が決定しているときはコールドゲームとする。

※降雨・日没などにより試合成立前に継続困難となった場合は継続試合とする。継続試合は、大会本部が協議して決める。

2. スピードアップ

1) 12-20 秒ルールの徹底

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には 12 秒以内に、走者がいる場合は 20 秒以内に投球しなければならない。

① 打者は理由なくして打席を外すことはできない。

（軸足を動かさない指導の徹底）・二塁塁審がストップウォッチで計測する

② 捕手は速やかに投手へ返球し、サインの交換も迅速に行う。

③ 次打者は速やかに打席に入る。

* 捕手・打者の行動が影響するのでお互いにスピードアップの精神を尊重すること。

2) 30 秒ルール徹底

監督またはコーチが投手のもとに行った場合、監督またはコーチがファウルラインを越えてから 30 秒以内に打ち合わせを終了する。

タイムをかけた際には、監督またはコーチは小走りで集散する習慣をつける。

3) 内野手(捕手を含む)

内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行ける回数を、1 イニングにつき 1 回 1 人だけとする。

監督またはコーチが投手のもとに行ったり、内野手(捕手を含む)も投手のもとへ行くことが許され、そしてそれは内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った回数に数えない。

なお、投手が交代したとき、準備投球の後に内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行けば、内野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った回数に数える。

4) 守備・攻撃タイム

1 試合のタイム数【守備時(監督、選手)】3 回【攻撃時】3 回【延長】3 イニングスにつき 1 回【守備側タイムの回数制限(作戦タイム)】監督がタイムを取ってファウルライン付近(ベンチを出る)へ行く回数は、1 試合に 3 回を限度とする。内野手(捕手を含む)が 2 人以上マウンドに集まった場合はタイムの回数 1 回をカウントする。

5) 投手交代

4 回目のタイムまたは 1 イニングに 2 回目のタイムの時には監督は行く前に交代を告げること。

6) 攻守交代

ゲーム中の全ての行動を迅速に行う。(歩かない、小走りで)ランナーズコーチャーも歩かず小走りで移動する。

7) サイン伝達

打者が打席を離れてサインを見ることを禁止する。(少なくとも軸足は打席内においてサインを見ること。)

8) 防具の着脱走者はフットガード、アームガード着脱を速やかに行う。

3. マナーアップ要綱

1) ミット移動の禁止

捕手が投球を受けたときボールの球をストライクに見せる意図でミットを動かす行為を禁止する。

2) サイン盗み行為の厳禁

走者・ランナー・コーチ・ベンチから打者へのサインの伝達禁止。紛らわしい動作をしない。

3) ヤジの禁止

相手チーム・審判員への中傷的な野次の禁止。

4) ボークを誘う声出しの禁止

実際にはスタートを切っていないのに、あたかも盗塁行為があるかのように声を出すのはボークを誘発する行為となる。

投手が投球動作(ストレッチを含む)を開始した後に、大きな声を発することを禁止する。

5) ユニフォーム着用時の喫煙についての注意事項

ユニフォーム着用時の喫煙を一切禁止する。スタンド、球場でのファンの前での喫煙を禁止する。

6) 出迎え禁止

本塁打・投手交代・攻守交替などベンチから出での迎え入れを禁止する。

7) ベンチ前キャッチボールの禁止

原則ブルペン以外でのキャッチボールは禁止する。球場の仕様によりブルペンがない場合等は、試合前に球場ルールとして、キャッチボール可能な場所と人数をとり決める。

8) バットスイングの禁止

初回または投手交代時にベンチ前に出て投手のモーションに合わせてバットの素振りをするを禁止する。

9) 試合中、ベンチ外にいる行為の禁止

試合中、プレーヤー以外の選手がベンチ外に出る行為を禁止する。指導者も同様、試合中は、ベンチ内にいることとする。

次打者、ベースコーチ及びブルペンにいる投手等以外の者は、ベンチに入っていること。

10) 審判員の裁定①

打球がフェアかファウルか、投球がストライクかボールか、あるいは走者がアウトかセーフかという裁定に限らず、審判員の判断に基づく裁定は最終のものであるから、プレーヤー、監督、コーチまたは控えのプレーヤーが、その裁定に対して、異議を唱えることは許されない。

11) 審判員の裁定②

審判員の裁定が規則の適用を誤って下された疑いがあるときには、監督だけがその裁定を規則に基づく正しい裁定に訂正するように要請することができる。

12) シートロック時のベンチ前で準備する行為の禁止

相手チームがシートロックをしている間に、ベンチ前で素振りやキャッチボール等を禁止する。相手チームがシートロックをしている間は、ベンチ内でできる準備を行い、待機する。

13) スタンド方向を向いてのベッパ(トスバッティング)の禁止

スタンド(フェンス)方向を向いて、ベッパを行うケースがあるが、ベッパ等の打撃練習は、フィールド方向を向いて行う。

全日本女子野球連盟用具規定

全日本女子野球連盟では、試合で着用するすべての物において、以下の内容を守ること。

- 女子野球や選手の品位やイメージを損なう等の不利益がでるような内容であってはならない。
- 公序良俗に反するものであってはならない。
- 政治的、宗教的または個人思想的なスローガン、メッセージまたはイメージを表示してはならない。
- 青少年の健全な育成に悪影響を及ぼすと判断されるものであってはならない。
- 人権侵害もしくは名誉毀損にあたるもの、または差別的なものを表示してはならない。
- 連盟理事会において不適切であると判断されたものは着用できない。

全日本女子野球連盟では、女子硬式野球各種大会(日本国内大会に限る)で使用できるバットについて以下のとおりとする。

1.バット

- 公認野球規則に準ずるものの使用を認める。ただし、金属製バットにおいては「中学硬式用」もしくは「硬式用」を使用しなければならない。
- 金属製バットは、経済産業省認可の SG 基準に適合した SG マーク(下図参照)が押印されている製品の使用を認める。
- 前項(2)にかかわらず、WBSC 女子野球ワールドカップ・BFA 女子野球アジアカップにおいて使用が認められている製品(ユニット-5 以上)もしくは反発係数規格 BBCOR 製品に限り使用を認める。
【注】ユニット:重量[オンス]-長さ[インチ] 例:26[オンス]-31[インチ]=5[ユニット]
- 木製バット、木片接合バット、竹接合バットにおいては、全日本バット工業会から公示されているブランド以外の使用は認めない。

(2)SG マーク (3)BBCOR マーク

※高校野球特別規則による新基準バット、及び旧基準バットの使用も認める。

(5)色彩

1木製バットは、着色バットの使用を認める。

- 使用を認める色は、黒色・ダークブラウン系・赤褐色系および淡黄色系とする。
- 木目を目視できるものとする。※前項(4)のバットはこの基準を適用しないものとする。
- 拙劣な塗装術を用いていないものとする。(例えばボールに塗装が付着するなど)

2 金属製バットの本体色、グリップ色についての色彩は問わない。

(6)表面のへこみ、ヒビ割れやグリップのゴム、皮のゆりみ、破れがある金属バットは使用を認めない。

(7)バットのグリップエンド以外にチーム名および個人名を表記することはできない。

※審判員によりバットの適合および安全確認を求められた場合は、すみやかに対応しなければならない。

2.グラブ

(1)投手の使用グラブについて

ボールとの見分けが困難となるため、白系・グレー系の色の使用は不可とする。

(2)野手の使用グラブ

公認野球規則に準じ、守備位置に関係なく野手は PANTONE®の色基準 14 番よりうすい色のグラブを使用することはできない。

3.ヘルメット

(1)公認野球規則 3.08 に準じて着用する。

(2)経済産業省認可の SG 基準に適合した SG マークが貼付された、ヘルメット(フェイスガード付を含む)のみ使用を認める。 SG 基準に適合していないフェイスガード付のヘルメットの使用については原則禁止とする。

※審判員によりヘルメットの適合および安全確認を求められた場合は、すみやかに対応しなければならない。

4.ユニフォーム

(1)同一チームのプレーヤー監督、コーチは、全員が同色、同形、同意匠のユニフォームを着用し、そのユニフォームには 6 インチ(15.2 センチ)以上の背番号を付けなければならない。

【注】特別な事由により着用出来ない場合は、事前に連盟もしくは大会主催者に申請するものとする。

(2)前項(1)にかかわらず、ユニフォーム下の裾長はチームで揃っていない場合も着用を認める。

(3)ユニフォームの素材、形、色に制限を設けなが、チーム名や背番号がはっきりと確認できるように着用しなければならない。

(4)背番号は、1 番から 99 番の算用数字とする。ただし、00 番ならびに 0 番の着用は、2024 年度まで猶予期間とする。

5.スパイク

(1)金属製またはポイントシューズを使用しなければならない。ただし、球場の仕様により指定する場合がある。

(2)スパイクのチーム統一は問わない。各自のスパイクを使用することができる。

(3)足首防護目的のハイカットスパイク、ミドルカットスパイクの使用を認める。

6.装飾品

(1)装飾品について、プレイに影響が出る場合はその着用を認めない。試合中、審判員によって危険と判断されたものは、直ちに外さなければならない。

(2)サングラスに関して申請の義務はないが、著しく反射するサングラスの使用は認めない。

7.マウスガード(マウスピース)

使用を認める。色彩の限定はない。

大会特別規則

1.試合球は、ミズノ社製の硬式球とする。

2.先攻後攻の決定は、メンバー交換時に審判員または本主催者が立会いのもと両チームがじゃんけんを行い決める。

3.メンバー表には控え選手を含め、選手 11 名以上を記載しなければならない。

4.試合前のフィールドイング練習は後攻チームから行い、互いに 5 分間とする。

5.本大会にベンチ入りする者は、各チームで傷害保険(スポーツ保険等)に加入していること。

9.大会中に事故が発生した場合、いかなる場合についても本主催者には賠償責任を求めない。

大会における肖像・著作物の商業利用

参加チームは、主催団体、関係団体、報道関係が大会告知、広報的な目的や試合配信、または商業的もしくは営利目的で大会を撮影(文書・画像・映像・音声等)し、関係媒体で使用することや商業利用することを了承する。またチームや観客の姿が映像もしくは画像に映り込んだり、アナウンスされた名前等が、映像に映り込む可能性があることを了承する。